

全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Act(改善)の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



長野県 JA上伊那

園芸重点品目の生産拡大を目指す

P

JA上伊那は主力の米を中心に、野菜、きのこ、果実、花卉、畜産など多岐にわたる品目を生産しています。その中でも、これまで園芸産地として蓄積してきた有利販売の成果を踏まえ、今後一層の農家手取り増加が見込める、野菜、果実、花卉を中心に「売れる園芸品目」の重点品目を拡大し、産地化を図ることにしています。

また、次世代を担う組合員や新たな担い手育成を実現するために、農業基盤の強化や園地・事業承継に対する支援を行っていくこととしています。



名実ともに日本一の生産量を誇るアルストロメリア。その品質を確認し合う生産者とJA上伊那職員

D

2022年からの3ヵ年計画では、農業生産の拡大を目標の一つとしており、地域別、品目別に詳細な数値目標を設定しています。中でも園芸重点品目に関しては、3年間で49.3haの生産拡大を図ることとしています。

JAでは2010年度から独自の「農業振興生産拡大支援事業」を実施しており、日本一の生産量を誇るアルストロメリア

など、重点品目の生産拡大を支援しています。22年度は、アスパラガスの新規生産者向けにハウス導入支援策として、100万円を上限に購入額の30%以内を支援する等のメニューを設けています。

また、園地や事業の承継に関する新たな支援制度の23年度の創設に向けた検討もすすめています。

園芸重点品目の生産面積の拡大



A

引き続き担い手農家への訪問など、常勤役員を含めて組合員の声を聴く活動や対話を継続しJAの事業・活動や運営へ反映していきます。

C

5月に開催したJA支所運営委員会では、組合員から生産拡大を含めてJAの積極的な取り組みに期待するとのお声をいただきました。また、10月に開催したJA支所運営委員会では、上半期の実績を報告し下半期の取り組みについて話し合いを行うなど、組合員との丁寧な対話に取り組んでいます。

